

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和5年 5月 12日

事業所名 どれみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	事業所2階の個室の開放やパーティションを活用してスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	60%	40%		規定の配置数は満たしていますが、利用児童の特性に応じて人手が足りないと感じることもあります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	100%	段差や角など怪我に繋がる可能性がある箇所については配慮しています。	階段や段差があるため、バリアフリー化が難しい面もありますが、必要に応じて対応していきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	定期的カンファレンスを設けています。また児童来所前にミーティングの時間を設けています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	送迎や面談時に意向の聞き取りを行っています。また年に一度アンケート調査も行っています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%		現在外部評価は受けていません。業務改善を図るために外部評価も検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	法人内の内部研修の参加や、学習会へ参加することで資質向上を目指しています。	コロナ蔓延以降、外部研修が減っていましたが、現在は少しずつ外部研修への参加する機会を増やしています。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%	利用児童や保護者からニーズを聞き取って計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	40%	60%	ヴァインランドや個別支援計画システムのアセスメント表を使用しています。	ヴァインランド等活用しきれていない面もあるため、他のアセスメントツールも検討していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員間で話し合って活動プログラムを考えています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	児童それぞれの課題に合う遊びを提供しています。	いちご狩り・芋ほり等のイベントは毎年行っています。児童からの意見も聞きながら、広く多くの子が楽しめるような活動を考えています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	60%	40%	子どもにより、滞在時間が違うためある程度の予測をして対応しています。	子どもの自発性や自由な発想を大事にしているため、大きな枠の中で個々が楽しめる工夫をして活動しています。

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%	それぞれの児童の特性や好きな事、発達段階や課題に合わせて個別活動や集団活動を組み合わせています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	活動前に最近の様子などを職員で情報共有しています。支援終了後の打ち合わせが難しいこともあるため、前日の様子を含めて振り返りを行っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	緊急性の高いものは、その日のうちに共有をしています。送迎や記録に時間を要するため、振り返りは次の日の朝に行っています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・アクシデントがあればヒヤリハットに記録して全職員で把握しています。 ・活動内容や日々の様子は毎日ケース記録や日報に記録しています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	電話やオンラインなども活用しながら保護者の方へ聞き取りも行っています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	60%	40%	一人ひとりに合わせて活動を組み合わせ、支援を行っています。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	担当者や児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	80%	20%	学校との連絡や下校時刻の確認などは保護者の方を通して行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	80%	20%		現在医療的ケアが必要な児童は利用していません。必要に応じて主治医と連絡を取れる体制を整えています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	80%	20%	必要に応じて情報共有を行っています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%	事業所の移行の際は、細かな情報共有を行っています。	
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	児童発達支援センターと連携して、研修等に参加しています。		

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	40%	60%	公園では地域の児童たちと一緒に遊ぶことも多いです。	児童クラブや児童館との交流はありません。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	60%	40%	機会が合えば積極的に参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や連絡帳を通して、情報共有を行っています。また、必要に応じて電話等お話しする時間を作っています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%		現在ペアレントトレーニング等の実施ができていないため、保護者の方からニーズや事業所の状況に合わせて検討していきます。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	ご利用開始前に説明をしています。支援計画の内容はモニタリングで説明しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談等があった際は、職員間で検討をして助言や支援を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	60%		コロナウイルスが蔓延して以降は、保護者会等を開くことができていません。今後、改めて保護者同士の交流ができる場を考えていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情等があった際は、苦情解決委員等を活用して迅速に対応するようにしています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	定期的にポポロ通信を発行しています。また、活動内容はホームページにも掲載して発信しています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の取り扱いについては厳重に管理し、外部での使用については個人と特定されないような形で、保護者の方に同意を得てから使用しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	児童や保護者一人ひとりに合わせて、わかりやすい方法でコミュニケーションをしています。児童には特性に合わせて視覚的なツールなども使用しています。また、保護者とはメールの活用もしています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	60%	40%		ポポロ祭りがコロナ以降開催できていない状況にあります。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40%	60%		一部の職員にしか周知されていないため、パート職員やアルバイト職員にも周知していきます。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	20%	80%		訓練の数が少ないため、機会を増やしたいと考えています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	内部研修を実施しています。	虐待防止委員会を整備して、人権研修や虐待研修を実施していきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	支援計画に緊急時・やむを得ない場合について記載し、保護者の方に説明を行って了解をいただいています。そのような状況が起こった場合には保護者の方に連絡と説明を行うようにしています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師の指示書を頂き、指示に基づいた対応をしています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	委員会を設置し取り組んでいます。ヒヤリハットやアクシデントが起こった場合には報告書を作成し、対策案まで情報共有できるようにしています。	